

ガバナンス 取締役会議長メッセージ



代表取締役会長
取締役会議長
芦谷 茂

多様な価値観を取り入れ議論の充実化・質向上を図り、グループの企業価値向上を目指す

取締役構成員の多様な意見を拾い上げ、全体最適に導くことが取締役会議長の役割

中国電力では、企業文化の変革に向けた取り組みの1つとして「組織・職位を超えた議論の活性化」を進めています。取締役会においても、社外取締役・社内取締役のいずれからも活発な議論を促すよう議長として心掛けているところです。

構成員からの意見をしっかり拾い上げ、全体の議論につなげることで、審議の質の向上、グループの企業価値向上を実現することが議長の役割と認識しています。

取締役会の実効性向上の鍵は議論の充実化・質向上

取締役会の監督機能をより重視したガバナンス体制とするためには、取締役会で審議すべき重点事項等に対する審議時間を確保し、議論の充実化を図ることが重要と考え、個別の業務執行に係る事項について、取締役会から社長執行役員への権限委譲を拡大してきました。取締役会では、社外取締役を中心に多様な視点からの意見が非常に積極的に出されており、年々議論が活発化しています。これらの意見を受けて、方向性の見直しを行うケースもあります。

十分な意見形成が行われるよう、決議を伴わない協議事項も設定しており、議論の質向上も図っています。新たなグループ経営ビジョンについても、協議による議論の深掘りを経て策定しました。

また、取締役会の実効性向上を図るべく、実効性評価を毎年実施しており、2024年度は、監督機能強化と多様性確保を

志向した取締役会の構成に関する課題に対し、取締役比率に関する2030年度目標を新規に設定しました。昨年の統合報告書の対談で申し上げた「社外取締役比率を半分程度にまで引き上げたい」という思いを、この目標に取り入れており、社外取締役比率50%以上とともに、女性取締役比率30%以上の達成に向けて取り組んでいきます。

さらに、取締役会における重点審議事項の議論充実化として、2024年度の実効性評価の結果を踏まえ、「企業戦略の大きな方向性」、「リスク管理」、「人材戦略」を掲げて審議を進めています。

多様な価値観を源泉として経営環境の変化に打ち勝ち、「中国電力グループ経営ビジョン2040」の実現を

国際情勢による不確実性の高まりとともに、国内においても、政治、経済、環境問題や電気事業を取り巻く環境なども目まぐるしく変化していくことが予想されます。

そのような社会情勢や経営環境を踏まえた中で、この度策定した「中国電力グループ経営ビジョン2040」の達成に向けて取り組んでいく必要があります。この実現には我々がこれまで経験したことのないような課題にもチャレンジしていく必要があるでしょう。

取締役会の中で、多様な価値観で議論し、的確かつ柔軟な判断を行い、当社グループの企業価値向上につなげていきたいと思っています。